

## 令和2年度新宿区外部評価委員会 第2回会議概要

### <開催日>

令和3年3月18日（木）

### <場所>

本庁舎6階 第3委員会室

### <出席者>

外部評価委員（12名）

星卓志、大島英樹、山口道昭、板本由恵、岸本幸子、栗原真吾、齋藤朗、田中健士、鶴巻祐子、野澤秀雄、藤川裕子、鱒沢信子

事務局（3名）

平井総合政策部長、廣井特命担当副参事、原田主任

### <開会>

#### 【事務局】

お時間になりましたので始めさせていただきます。

会長より、開会のご挨拶をよろしくお願いいたします。

#### 【会長】

皆さん、お久しぶりです。お元気でしょうか。

ただいまから、令和2年度第2回新宿区外部評価委員会を開催いたします。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、残念ながら外部評価を実施することができませんでした。今回が、今年度の最後、そして第4期の最後の外部評価委員会です。

今年度は評価できませんでしたけれども、今期の活動の総括として、お手元にあります「新宿区外部評価委員会 3年間の活動を終えて」を作成いたしました。この報告書において、第4期外部評価委員会の活動を通しての成果や課題を整理しております。今回の活動報告が、今後の新宿区の行政評価制度の更なる発展につながれば幸いです。

#### 【事務局】

本日は、今期最後の委員会となりますので、吉住区長と平井総合政策部長が出席しております。区長からご挨拶申し上げます。

#### 【区長】

皆さんこんにちは。今年度一年間、新型コロナウイルスの影響を受けまして、様々な事業や会議が中止になり、オンラインでの開催もやっと端緒についたところです。恥ずかしながら、

役所はセキュリティを重視するがゆえに、なかなかオンラインでの環境が整っていなかったのですが、少しずつオンライン会議などを採用しながら事業を進めているところです。

今、会長からお話ございましたが、今年度は、通常行っている外部評価のための調査活動ができないという状況に陥ってしまい、せっかく公募で申し込んでいただきましたが、団体から推薦していただきましたのに、大変ご迷惑をおかけいたしました。

活動報告書における委員の皆様の感想を拝見させていただきましたが、本当に使命感を持っていただき、また、この事業はどのようなものなのだろうという視点を持っていただきながら、評価をしていただけてきたということがよく分かり、本当に感謝を申し上げたいと思います。

パブリック・コメントという方法で、計画をつくる段階で区民の声をお聞きする機会が多くあります。一方で、紙に書いてある内容だけでは、何のために、どんな効果があり、事業が行われているのかということが分かりにくい場合もあると思います。そうした意味では、この外部評価委員会の活動では、区民の皆様にも団体の皆様にも、この事業が誰のためになぜあるのかということも、実感していただいた上で、改善すべき点をご指摘いただき、区としても事業の見直しにつなげていくということをしてまいりました。

今後こうした取組というのは、どのような環境になっても必要なことだと思います。今期は終わりということになりますが、引き続き区政のウォッチャーとして、私たちに叱咤激励等、そしてご指導いただければ有り難いと思っております。

本当に3年間ありがとうございました。

#### 【事務局】

次に、今期の外部評価委員会の活動を通してのご感想ということで、各委員より一言ずついただければと思っております。

初めに、星会長からよろしく願います。

#### 【会長】

今期、3年間のうち、1、2年目だけの活動となりましたが、今期より施策評価を実施するということになりました。

それまでは個別の事業の評価をしていたわけですが、PDCAサイクルということで考えると、個別の事業は一番小さなPDCAのサイクルです。施策評価というのは、その1つ上のランクのPDCAです。個別施策には様々な事業が位置付けられており、それを総合して施策の効果을上げていくということで、その施策を評価するというのはなかなか難しいかと、取り組んでみて思っていました。特に初年度は、どのように評価すれば良いのか、よく分からなかったところがありますが、2年度目になり、施策全体がどのような効果을上げているのか、見えていないところと見えているところ、その難しさも分かり、評価の仕方が少し見えてきたかなというところが、今の段階かと思っています。

活動報告書にも書きましたが、少し大きなPDCAサイクルを回していくということであれば、それを次の実行計画にいかん反映していくか、もちろん、反映する、しないは区の判断ですが、うまくチェックした上でアクションに結びつけるということ、もう少し効果的にでき

たら良いのではないかと、今後の課題として思っています。P D C Aサイクルの回し方をもう少し発展させられたら良いのではないかとということが、今期、施策評価に取り組んだ中で一番の印象です。

もう一点、外部評価とは話が離れますが、今回のコロナ対策で、区長が先頭に立ち、本当に素晴らしい対策をされていると、報道だけではありますけど拝見しておりまして、敬意を表したいと思います。

伺っていて思ったことは、危機に対して、それを地元の方と共有して対策を立て、あるいは一緒に行動していくということは、正にまちづくりの理想のそのものだとということです。これは、コロナ対策だけではなく、環境課題にしても、ごみ問題にしても、あるいは福祉や様々な行政分野、あらゆることについて、危機を共有して一緒にアクションを起こすという姿勢は、非常に重要だと思います。今回のコロナ対策の行動を、ぜひ新宿区の基本の姿勢として、これから発展させていっていただければ、すごく良いなと思いました。

**【事務局】**

ありがとうございました。

続きまして、大島副会長、よろしくお願いいたします。

**【副会長】**

大島です。副会長、そして第2部会長という役割をいただきました。

今期から初めての委員でスタートしたわけですが、1年目は外部評価のプロセスを身につけていくところで、あっという間に終わってしまったというようにも思います。2年目になってようやくやり方が分かってきたというところで、期待していた3年目だったので、その活動に取り組みなかったのは非常に残念だと思いました。

第2部会は、高齢者、教育、福祉などの分野に関わる内容について評価をします。施策評価という会長の言葉もありましたが、その前の段階としても、経常事業という一つ一つの事業数が非常に多い部会でもありました。個々の事業の中身を理解するということで、精いっぱいというようなところもありましたが、そのことを今、振り返ってみて、それらの一つ一つの今まで当たり前に行われてきた事業が、この1年、どのような影響があったのかということが、心配というか、気になりました。

外部評価の活動というのは、主に書面から見の中では、達成度というような数値的なところが気になりますけれども、そういうところでは測れないような影響や、とても難しい状況の中で、ここまでできたとか、そのような変化が聞ける、あるいは見ていけることも、外部評価の活動として、非常に大事なことであるということを感じたところでした。

**【事務局】**

ありがとうございました。

続きまして、山口第3部会長、よろしくお願いいたします。

**【部会長】**

山口です。

私自身は、行政学の専門でありまして、特に地方自治を専門にしておりますので、自治体における政策評価の観点からも、新宿区の外部評価委員会に非常に関心があったところでありませ

ず。  
政策評価や事務事業評価は、1990年代の終わりぐらいに日本で活動が始まり、それに伴い、行政学者の間でも政策評価をどう進めていくのか、どのような効果があるのか、非常に研究が進んだと思っております。それからもう20年経ち、最近言われていることは、評価疲れというようなことで、評価が日常的な業務の一環になっている中で、評価することによりどのような成果を上げることができるのか、それがなかなか見えにくくなっているというのが現状だと言われているところです。

私自身は、政策評価に実際には関わってこなかったのですが、このような状況であるということ

を学生にも話をしてきたわけなのですが、実際に携わってみますと、これは新宿区特有のことなのかもしれませんが、区民の皆さんが非常に熱心に議論をしておりました。行政が捉える行政評価と、区民が捉える行政評価、そのギャップといったものもあるかと思いますが、実際の現場に携わることができ、非常に私自身は役に立った取組でありました。

新型コロナウイルスの影響により、今年度は全く活動できませんでしたが、新型コロナウイルスが、区の行政にどのような影響を与えたのか、そして、最終的には評価に結びついていくかと思いますが、評価にどのような影響があるのか、これは、研究テーマとしても非常に関心を持っておりますので、引き続き、勉強させていただきたいと思っております。

3年間、どうもありがとうございました。

**【事務局】**

ありがとうございました。

続きまして、団体推薦委員の板本委員、よろしくお願ひいたします。

**【委員】**

板本です、よろしくお願ひします。

私も、今期初めて外部評価委員になりまして、1年目は戸惑うことが多くて、毎日、勉強勉強という感じでした。資料の読み込みや与えられた課題をこなすのに精いっぱい、2年目になり、少しつかめたかなというところで、3年目が新型コロナウイルスの影響で中止でしたので戸惑うことも多くありましたが、外部評価委員会に参加させていただき、すごく勉強させていただきました。ありがとうございました。

**【事務局】**

ありがとうございました。

続きまして、区民委員の齋藤委員、よろしくお願ひいたします。

**【委員】**

本当は3年間やる予定で頑張ろうと思っていたのですが、新型コロナウイルスにより2年間で終わってしまい、非常に残念であり、中途半端な感じで不完全燃焼という感じがすけれども、今回の新型コロナウイルスを受けて、各区が独自にいろいろな判断をし始めたということは、

とても良いことだと思います。墨田区モデルや世田谷モデルという形で、各区がそれぞれ自分の頭で考え始めたということはとても良いことで、これは、今まで横並びで官僚組織でやっていたことが、随分変わってくるということで、とても良いことだと思います。

新宿区においても、やはりこれからは自分の頭で考えられる職員を増やすということが、とても重要ではないかと思います。これまでは、誰かが決めた命令みたいなものをしていけば良かったことも、これからは、今までにない新しい領域に入ってきたと思います。各施策や計画事業をもう一回見直して、要らない事業は廃止して、また新たな事業にできる財政的ゆとりというのがあるのであれば、組み直していくということも考えていかななくてはならないかと思います。

政策と施策と計画事業の三位が一体にうまくできれば、行政としては良いのだと思いますが、なかなかこれが難しいわけです。政策と施策と具体的な計画事業がずれてくると、一定の範囲はしょうがないと思いますが、大きくずれてしまった場合には、結果の判断が難しくなると思います。内部評価については、それなりの基準というものをもっと明確にしてもらえれば、それに対して外部評価を上積みするという点で、外部評価もよりやりやすくなるのではないかと思います。

#### 【事務局】

ありがとうございました。

続きまして、区民委員の栗原委員、よろしく願いいたします。

#### 【委員】

栗原です。

今年度、新型コロナウイルスの影響で活動できなかったこと、すごく残念に思います。

今期、活動する中で、キャッチボールという単語が特に心に残っていて、私たち外部評価委員が行政側に話をし、また行政から返ってくる言葉を受け止める、外部評価の活動においては、受け止めるということがすごく重要だったと思います。その過程を経たことによって行政に対する理解も深まり、意見も言えたと思います。ありがとうございました。

あと、コロナ禍において、行政の様々な施策は、外から見ていて本当に心強く思いました。新宿区が、リーダーシップを持っていろいろな対応をしているのを見てきましたが、今後もまたウォッチしていきたいと思っております。

ありがとうございました。

#### 【事務局】

ありがとうございました。

続きまして、団体推薦委員の鶴巻委員、よろしく願いいたします。

#### 【委員】

子育てメッセ実行委員会からまいりました鶴巻です。今期で2期目の外部評価委員を務めさせていただきました。どうもありがとうございました。

2期務めたのですが、やはりなかなか勉強が追いつかないというか、特に自分に身近ではな

い事業を勉強するのは、本当にとっても大変な作業だったなという感想を持っております。ただ、視察やヒアリングの機会を設けていただいたことは、とても貴重な体験で、ヒアリングで現場の方に直接質問をして、直接答えをもらえるということは、評価するに当たってとても重要だったということを実感しております。

今年度は残念でしたけれども、最後に、皆さんの顔を拝見する機会を設けていただき、とても良かったです。どうもありがとうございました。

#### 【事務局】

ありがとうございました。

続きまして、区民委員の岸本委員、よろしく願いいたします。

#### 【委員】

皆さん、本当にこの3年間、お世話になりました。特に、何にも分からなくて入ってきているものですから、第3部会をおまとめいただいた山口先生や事務局の方々には、大変お世話になりました。ありがとうございました。

今まで、区民でありながら、区政というものには全く興味がなかったと言ってはいけないのですが、朝会社に行って、夜会社から帰ってきて、それがずっと続いてという生活で、地域の中にもそんな溶け込んでいなかったところに、退職して、急に町会の活動に入ったり、いろんな団体の活動に入れてもらったりしたときに、この外部評価の募集があったので、応募させていただきました。

それで分かったことは、新宿区は非常にクリアなところだなということです。ほかの自治体では、例えば、外部評価であれば、学識委員や専門の会計士など、そういう方々のみで実施している、区民が入っていないところもあるようです。でも、新宿区はこうやって区民の声も聞いてくださり、それは有り難いなと思いました。

外部評価委員会に参加したことで、自分の行政への見方も変わりました。例えば、区役所の対応はどうかということ、区民に沿っているのかということなどが外部評価のテーマに上がってくると、そういう目で区を見るようになります。そうすると、職員の皆さんは一生懸命お仕事をされているのに、こういうことにも気がつかずに、ありがとうございましたという感謝の気持ちもなかったのだなという反省がありました。本当に区が取り組むことはたくさんあって、それら全てをこなさなくてはいけないのだと思うと、大変だなということがよく分かりました。

第3部会の評価の中に、人事評価のことについてありました。私は民間で働いていましたので、驚くようなことがいっぱいありまして、民間と区役所とでは、人事に関することというのは随分取扱いが違うなと思いました。民間団体とは違うのかもしれないのですが、働いている人は同じような気持ちもあると思いますので、そこを変えていくということも必要なのではないかと思います。

大学生とコラボしてまちづくりをするという取組は大変に良いなと思ったのですが、それが定着ということになってくると難しい面もあるのかなと思います。良い取組だと思うのでそれ

が継続していってもらったら良いと思いました。

以上です。ありがとうございました。

**【事務局】**

ありがとうございました。

続きまして、団体推薦委員の野澤委員、よろしくお願いいたします。

**【委員】**

新宿区の防災サポーター協議会から推薦されて、この3年間と前期も外部評価委員をやらせていただきました。

評価ということで、学識の先生が評価の文化という言葉をお使いになったときがあったのですが、本当にそのことが身にしみました。評価というものは、結果を評価するということに尽きるのではないかと思うのですが、結果の前に、区の職員も仕事として、あるいは公人として、区民に接して仕事をこなしていく中で、施策の中にもう少し血と涙を入れていただいて、そのようなものが反映できるような区政ができると良いかなと思っています。

やはり、公人として、それから自分のこととして、それから、自分がその立場にあったらどうなのかということも踏まえて、その仕事が成果として出れば、もっと区民と行政の間が縮まってくると思います。これからは、評価も結果だけではなくて、その経過もきちんと見られると良いかなと思っています。

ありがとうございました。

**【事務局】**

ありがとうございました。

続きまして、区民委員の藤川委員、よろしくお願いいたします。

**【委員】**

藤川です。今期初めて区民委員として外部評価委員をさせていただきました。第1部会で、公園とか防災、環境などについて、皆様と一緒に評価をさせていただきました。

私が区民委員として応募したのは、日頃区民として感じていることについて、区民の一人として伝えていきたいなと思ったからです。評価するとか点数つけるとか、そういう大それたことはできないけれども、日頃感じているようなことを何か伝えられたら良いなと思って参加させていただきました。

担当の方のお話を聞いたり、現場を見に行ったりして感じたことは、現場とか担当の課の方々の非常にきめ細かい対応を知ることができたということです。例えば、ごみのことと言えば、ごみと資源の細かい分別を現場でしているとか、ごみ収集車のルートも、毎回毎回、パズルのように誘導し、どうしたら効率よく回れるのか決めているとか、そういう話まで聞くことができました。区の事業もそうですし、例えば、地域のボランティアとか地域の活動している人もそうですが、やはりコアになる人の力がすごく大きいと思いました。

今年は、東日本大震災の10年ということで、テレビでもいろいろと振り返る番組ですとか、当時の方々がどうしているかとか、そういったことも放送されており、思いがけない津波の被

害を、どう乗り越えていったかということを知ることができました。最近、思いがけないことが多くあり、コロナ禍を乗り越えても、また次の何か思いがけないことが起こるのかもしれないと、そのようなことも感じています。

防災に関して、防災フェスタのすばらしい活動も、この外部評価の活動を通して初めて知ることができました。その中で、第1部会では、防災フェスタもすばらしいけれども、地域防災の担い手を育てるところまでいっているのかどうかという、厳しい意見もありました。事業の良い悪いという評価ではなくて、区政のPDCAサイクルを回して、どのようにスパイラルアップしていくのか、そういうことにつなげていていただきたいと思っています。

本当に、3年間ありがとうございました。

**【事務局】**

ありがとうございました。

続きまして、団体推薦委員の鱒沢委員、よろしくお願ひいたします。

**【委員】**

鱒沢です。民生・児童委員の立場で、9年間、第2部会に所属し、福祉、健康、子育て、教育部門の評価をさせていただきました。この間、4人の部会長の先生に大変お世話になりました。

評価作業は大変緊張感がありますし、私にとっては少し厳しいことが多かったというふうに思っておりますけれども、反面、先生たちと過ごすブレイクタイムはとても楽しかったです。ありがとうございました。

改めて、この9年間を振り返ってみますと、9年前に第2部会で区民委員の中心的役割を務めてくださったのが小菅知三氏で、時々資料の読み込みが甘いのではないかとか、お叱りを受けることがございましたけれども、ヒアリングの場面での所管課との向き合い方、それから、いかに区に私たちの意見を届けるのか、聞き止めてもらえるのかといった、その文書の作り方など、本当に様々な場面で多くのご指導をいただきました。

昨年11月16日に亡くなられましたけれども、改めてご冥福をお祈りし、感謝したいと、今、思っております。小菅さんの境地にはなかなか行き届かないことは、どんなに追いかけても無理ということは分かっていますけれども、少しでも、一歩でも、半歩でも近づけるように、区民委員として研鑽していければと改めて思っています。

ありがとうございました。

**【事務局】**

ありがとうございました。

続きまして、区民委員の田中委員、よろしくお願ひいたします。

**【委員】**

田中です。

地域コミュニティについて、商店会、町会の評価をさせていただいたのが、この2年間だったのですけれども、私はもともと町会員であって、商店会員であって、そのような活動をずっと続けてきた当事者です。当事者の立場から見ていた行政、それから行政の立場に立った人た



ちからの意見を聞く、自分は行政から支援をされている立場の人間であるのですけれども、支援をしていただくというところがどのようになっているのかというのを見せていただいたということは、私としては非常に意義深いなと思いました。

その中でやはり思ったことは、自分たちに足りないもの、特に町会でも商店会でも足りないと思ったものは、自分たちの主体性なのだろうと思います。行政に対して何を求めるかということ自体が、あまり明確になっていないということが、この外部評価の中で、実感として思ったところです。行政にこういうことを期待するという意見がもっとはっきりしていれば、行政の施策についても、もっと明確なものが出てくるだろうと、その点では、大変反省するところだと思いました。

私としては、この反省をなるべく生かしたいと思っております。商店会の活動の中では、商業団体としての活性化と地域インフラとしての活性化、どちらも商店会としてはなければならぬものなので、これについては、会員たちともう一回話を掘り下げていきたいと思いました。

町会に関しては、町会の加入率という課題があり、その加入率を上げようという話になるわけですけれども、私としては、今の時代、町会の加入率を上げること自体は、それほど意味がないのかなと思っています。

情報発信ということでホームページを町会で作りました。1つは、まち友の会という発信を町会のホームページで行っています。これは、地域につながる人を増やすというコンセプトで、町会員でなくても地域の情報を知ってもらえるように、LINEのアカウントで友達登録していただき、その会員に町会の情報を提供するというものです。その中から、気持ちのある方は町会活動に参加してほしいと、そのような形で、緩くつながるという活動を町会で取り組んでいくということで、ホームページを運営しています。防災と祭礼については、これは町会の主な活動となるものなので、防災の安全・安心と祭礼のにぎわいというものを地域の人と共有するため、その情報と参加募集をこのサイトで発信しています。

特に、避難所に関しては、区から、新型コロナウイルスの感染症対策というものが令和2年11月に出了ましたが、実際には、感染症対策は、現実として地についていません。ほとんどの避難所は対策の計画がない状況です。そのため、私たちは、四谷小学校避難所防災ホームページを立ち上げて、そこで感染症対策について、区の情報を含めて掲載し、自分たちの考えも掲載し、その上で地域の人と感染症対策を含めた避難所のあり方について議論を始めています。

町会にしる商店会にしる、自分たちがどうしたいのかということをしつかり持った上で、行政とタグを組むということがとても大事だと何となく思ってきた30年ほどの活動ではありましたが、外部評価に加えていただくことで、そういったことをもっと明確にしなくては行けないのだという気持ちに至りました。

また、町会や商店会というのは同質な人が集まる傾向にあるので、多様な意見や目新しい意見が出てこないということがよくあります。今回こういう外部評価の会議の中で、様々な立場の方、区民の方もいらっしゃれば、そうでない方も、それから専門職、専門の方もいらっしゃる中で、区の行政の活動について話し合いの場に着けたというのは、非常に面白い体験でした。

ありがとうございました。

**【事務局】**

ありがとうございました。

委員の皆様のご感想を受けて、区長より一言お願いいたします。

**【区長】**

本当に熱心に検証、分析をしていただいて評価をしてくださっていると思います。改めて感謝を申し上げたいと思います。

区としても、良かれと思って施策体系をつくり事業を構築していますが、それが、必ずしもカスタマイズされていないという面もあります。例えば、他の自治体で成功した事例であっても、結果的には、エリアによって、また個人個人によって状況が変わってきますので、いわゆる区民全体に対して、必ずしも適した支援になっていない、事業になっていないという課題が必ずついて回ってくると思います。

一方で、メニューを増やしていきますと、今度はメニューが多過ぎて何を使っていいかわからない、ホームページのボリュームが大き過ぎてどこを見たら良いのか分からない、結果的にいろいろな事業に区民の皆さんがたどり着けないということが、どうしても起こりがちです。今回の、コロナ対策の中でも、区では緊急融資等、様々な支援事業を立ち上げました。区だけではなく、国も東京都も中小企業振興公社も、様々なところで様々な事業を実施しています。そのため、それらを全て網羅したような文書も作るのですが、その後、また新しいメニューが増えてくると、内容が古いものになっていってしまいます。どこと連携していけば、最も効果的な施策や事業になるのかというのは、非常に難しいところではありますが、私どもも、絶えず区役所の仕事をさせていただいていますので、その意味では、ご相談いただいた際には、どういうメニューをご提示すれば一番分かりやすく使いやすいのか、そのようなことを常に考え最適なものを示すということが、恐らく情が籠もっているかどうかとか、ちゃんと相手の身になって考えているかどうかとか、そういうことにつながっていくのではないかと思います。

また、主体性の話もありました。自分たちの団体や自分たちの地域、あるいは自分自身をどうしたいのかということが、ご本人がつかめていない、いわゆるプランがない状態でご相談を受けると、どうしても一般的な事業のご紹介になったり、あるいは、新しい事業を組み立てるなど、そのような対応になろうかと思います。その意味では、何していいかわからない、もうのっぴきならない、そういう状況でご相談に来る方も多くいらっしゃいますので、とにかく相手がどんな悩みを抱えているか、どんな課題を抱えているかということを酌み取る力が恐らく私たちのほうに必要で、その上で、施策を立てて事業を構築していくということ、構築したものをどのように活用していただくかということ、きちんとやっていくことによって、実績もまた上がっていくものになりますし、ブラッシュアップもできると思いますので、いただいたご意見を基に、これからも絶えず見直しをしながら取り組ませていただければと思います。

本当に真摯にこの評価に取り組んでいただきましてありがとうございます。

**【事務局】**

区長、総合政策部長は公務のため、ここで退席させていただきます。

(区長、総合政策部長 退席)

**【会長】**

それでは、次第1「3年間の活動の総括について」です。

すでに総括していただいた感じはありますが、今期は、施策評価ということで、新しい取組を実施しました。

もちろん、今期初めて参加していただいた方は、その前をご存じないかもしれませんが、いろいろと難しかった点もあったかと思えます。活動報告書では感想も作成いただき、率直な声を出していただいて有り難かったと思えますが、ご自身の活動を振り返って、今後の外部評価に向けてご発言いただけることがあれば、お願いしたいと思えます。

よろしいですか。

来期どのようなメンバーでということはまだ分かりませんが、恐らく、私も引き続きということになると思えます。先程皆さんにご発言いただいたこと、あるいは、今回感想としてお出しいただいたことを十分踏まえて、外部評価をより良い形にしていきたいと思えます。良いというのは、先ほど私が申し上げたように、区の行政に反映するという仕組みがうまくいくということが、一番良い関係だと思っています。批判をして、それに反論するような関係は決して良くないので、行政がより良い方向にいく、行政も委員の皆さんもそれが正しいと思えるという、そのような形に是非していきたいなと思っています。

引き続きご参加いただく方もいらっしゃるでしょうし、あるいは、今回で最後という方もいらっしゃるかもしれませんが、それに関わらず、いろいろな形で、この外部評価にも関心を持っていただければと思います。

それではよろしいですか。

いろいろ思いを語っていただきましたので、今日の議題はこれで終わります。

ありがとうございました。

最後に、事務局から挨拶があるということですのでお願いいたします。

**【事務局】**

皆様、改めまして、総合政策部特命担当副参事の廣井です。

本日、初めてお目にかかる方もいらっしゃるかと思いますが、3年間本当にお疲れさまでした。

私は、昨年4月から行政評価担当の副参事になりましたが、皆様の活動報告書を読ませていただき、新型コロナウイルス感染症の関係で外部評価委員会が開催できなかったこと、非常に残念に思っているところでございます。

本日、皆様の机の上に「新宿区第二次実行計画」と「新宿区第二次実行計画（素案）」に関

するパブリック・コメントにおける意見要旨と区の考え方」を参考にお配りさせていただいております。こちらについては、今年度、「新宿区第二次実行計画」の策定の年でもございましたので、素案に対して、皆様からご意見をいただきました。また、皆様がこれまで携わっていただいた評価結果を踏まえた実行計画になっておりますので、これらについては、ひとえに皆様方のご協力あつてのことと思っています。

長期間にわたりまして、本当にお疲れさまでした。ありがとうございました。

**【事務局】**

企画政策課の原田です。

行政評価の担当になり、今年度で4年目になります。担当させていただいた4年間、一緒に外部評価に携わっていただいた委員の方もいらっしゃる中で、私としても、大変勉強させていただいた4年間でした。

行政評価の担当になった最初の頃は、評価制度自体をあまり知らずに始めた形でしたので、本当に至らない点も多くあったと思いますが、外部評価に取り組んでいく中で、委員の皆様の非常に熱心に活動していただいている姿勢に、私としても非常に心打たれる、また勉強させていただく場面が多くありました。

今年度は任期最後の年にも関わらず、外部評価を実施できなかったこと大変申し訳なく思います。来年度以降は、新型コロナウイルス感染症の対策をしっかりと講じた上で外部評価を実施し、区として評価活動を止めないよう取り組んでまいります。委員の皆様にも、今後も様々な場面でご意見いただきながら、より良い区政を目指して、引き続き評価活動を続けていきたいと思っております。

皆様、3年間本当にありがとうございました。

**【会長】**

それでは、今年度はこれで最後になります。皆さん、本当に熱心に活動していただき、ありがとうございました。私も本当に勉強になったと思っております。

では、これをもちまして、第2回新宿区外部評価委員会を閉会します。

ありがとうございました。

<閉会>